

FIVE VALUE ASSET

Monthly Newsletter

5バリュー通信 Vol.7

Date of issue: 2025.5.15

平素よりお世話になっております。5バリューアセットでございます。今月もマンスリーレターとして5バリュー通信をお届けいたします。マーケットニュースのご案内の他に、時事に関するコラムなどを月に1回お届けいたします。お楽しみいただけますと幸いです。

Interview メンバーの言葉



ファイナンシャルアドバイザー
野口ショーン陽太

皆さまはじめまして。今年の3月より、5バリューアセットに入社いたしました、野口ショーン陽太と申します。簡単な自己紹介をさせていただきますと、小学校2年生までは米国のネバダ州で育ち、それ以降はずっと日本で暮らしております。大学卒業後は日系証券に新卒で入社し、日本株を中心とする資産運用をお客さまに提案していました。

仕事を続けていくなかで、お客さまの大切な資産の運用提案においてもっと高い付加価値をご提供できないかと模索していたところ、利息収入があり安定的な運用ができる債券に特化し、債券のプロフェッショナルが多数所属している5バリューアセット株式会社のことを知りました。

5バリューアセットでは顧客重視をはじめとする5つの価値観をととても大切にしており、私もこの価値観に共鳴し、入社させていただきました。私自身、債券についてはまだまだ知識や経験が不足していると感じることもありますが、5バリューアセットには債券運用のスペシャリストが揃っていますので、先輩方から様々なことを吸収し、お客さまにより高い付加価値をご提供できるように努めて参りたいと思っています。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

Topics 今月のピックアップ



5 May 2025

- Book review
- Financial proverb
- Presentation



- 田中泰延『読みたいことを、書けばいい。』
- 見切り千両・損切り万両
- 5バリュー研修: 映画『美味しいごはん』

Book Review 田中泰延『読みたいことを、書けばいい。』



田中泰延(たなか・ひろのぶ)

1969年大阪生まれ。早稲田大学第二文学部卒。学生時代から6000冊以上の本を乱読。1993年株式会社 電通入社。24年間コピーライター・CMプランナーとして活動。2016年退職、「青年失業家」と称し、インターネット上で執筆活動を開始。Webサイト「街角のクリエイティブ」に連載する映画評「田中泰延のエンタメ新究」が累計500万PV超の人気コラムになる。

その他、奈良県、滋賀県、広島県、栃木県などの地方自治体と提携したPRコラム、写真メディア「SEIN」などで連載記事を執筆。映画・文学・哲学・音楽・写真など硬軟幅広いテーマの文章で読者の支持を得る。

2019年、ダイヤモンド社より初の著書『読みたいことを、書けばいい。人生が変わるシンプルな文章術』を刊行。2020年、出版社・ひろのぶと株式会社を創業。(Amazon著者紹介より)

本書『読みたいことを、書けばいい。人生が変わるシンプルな文章術』(2019, ダイヤモンド社)はビジネス本に分類され、(一応)文章術に関する本です。著者の田中泰延さんはコピーライター・CMプランナーとして電通に勤務され、在籍時から映画評等の寄稿が人気を博していました。電通を退職後は「青年失業家」を自称するほか、現在はフリーランスとして精力的な活動を行われています。

「(一応)文章術」と括弧付けしたのは、本書は「文章」、より詳細には「事象と心象が交わるところに生まれる文章」と田中さんが定義される「随筆」の書き方が中心に据えられているためです。本書は年齢、職業、ジェンダーなどに基づく特定層に訴求する文章コンテンツや、説得させる・仕事に繋げる・問題解決を行うといった何らかの目的を達成するためのノウハウ(いわゆる「<文書>作成術」)を指南するようなビジネス / ハウツー本とは異なり、書くという行為の意味、目的、機能などを思想・哲学的なテーマと絡めて論じられます。などと書くと難解なイメージを持たれそうですが、本文は平易かつ軽快な語り口で展開されるので、非常に読みやすい内容です。

田中さんの2冊目の著作『会って、話すこと。自分のことはしゃべらない。相手のことも聞き出さない。人生が変わるシンプルな会話術』(2021, ダイヤモンド社)は「(一応)会話術」に関する本ですが、本書と同様に「会(って)話(すこと)」という行為が多角的に分析されます。さらに、他者に向かって投げかける言葉や発話のもつ不確実性に関する分析に加え、言葉の両義的(アンビヴァレント)な要素についても鋭い指摘がなされるなど、こちらも非常に面白い内容です。

書くという行為を考える本書では、他者に向けた文章ではなく、「自分のために書く」/「自分が読みたいものを書く」という命題に力点が置かれる一方、「この本はハウツー本やビジネス書でもない。だが、うっかり実用的なことを書いてしまう場合がある」(54頁)と断りが入り、電通時代の経験を基にした広告制作やコピーの書き方なども解説されます。

その他にも、文書執筆の作法としての一次資料調査の重要性、国会図書館の閲覧複写サービスの活用、大宅壮一文庫など私設図書館の利用といった実践的アドバイスや、「巨人の肩に乗る」(知識は先人の積み重ねてきた膨大な過去の引用や参照によって、僅かに更新されることの比喩)という心構えを説くなど、研究者を目指す大学生・大学院生向けの論文執筆指南書のような内容も含まれています。

本書の中で着目したいのは、マルクス、ソシュール、今村仁司(『貨幣とはなんだろうか』)、岩井克人(『貨幣論』)といった先人を踏襲しながら、改めて「貨幣と言語は同じものだ」という論点が取り上げられる、貨幣と言語の同質性に関する部分です。言語は「決済手段(支払手段)としての機能」(交換手段)、「価値尺度としての機能」(対価・犠牲を支払えるという価値の保証)、「価値貯蔵手段としての機能」(貯蓄・貯蔵し、使いたい時に使える)という3つの機能を備える点で貨幣と類似しており、「言葉とは、相手の利益になる使い方をするれば、相手の持ち物も増え、自分の持ち物も増える道具なのだ。書いたら減るのではない。増えるのである。」(181頁)と、田中さんはまとめられます。この点は会話にも共通で、言語を介したコミュニケーションにおける「贈与」や「利他」を考える際の立脚点になります。

『読みたいこと』『会って、話す事』はいずれも言葉(文章や会話)をテーマにしており、私たちが日常的に使っているツールについて深く考察する契機となると思うので、ぜひ2冊を合わせて読まれることをおすすめします。

Financial proverb 見切り千両・損切り万両

改めて申すまでもなく、先月はトランプ大統領の関税政策に振り回される格好で市場は大荒れとなり、4月月間の高値安値の変化率は、ドル円為替で約7%、日経平均株価・S&P500・米国10年国債利回り約15%にも上りました。幸い足元では市場は徐々に落ち着きを取り戻し、各資産クラスとも4月初の水準まで戻り（ないしはそれを超え）つつありますが、関税政策の実体経済へ与える影響が表面化するのはいずれであり、まだまだ予断は許しません。

さて、かように短期間で大きな相場変動が起きた時によく話題に上がるのが「ロスカットをすべきか否か」ではないでしょうか。昔から知られる相場格言で「見切り千両・損切り万両」があります。損失の小さいうちに見切りをつけるのは千両、損失を拡大させないために損を覚悟で手仕舞うことは万両の価値があるという意になります。

今回はこの「見切り千両・損切り万両」について少し掘り下げて考察してみたいと思います。あくまでも私見ですが、この格言は投資スタイルにより解釈が異なっても良いものと考えています。まず日計り（デイトレード）や信用取引、証拠金等レバレッジの効いた取引等短期投資の場合は、素直に従うべきでしょう。時間を味方につけることが出来ませんし、信用・証拠金取引の場合は追加証拠金も発生し、取引によっては強制ロスカットもあり得ます。早めの見切りが大事であることは言うまでもありません。ただこの「見切り千両・損切り万両」、「言うは易く行うは難し」の典型でプロの機関投資家でもなかなか上手くは出来ないものなのです。これはノーベル経済学賞を受賞したダニエル・カーネマンのプロスペクト理論における損失回避バイアスによるものと言われています。詳細は割愛しますが、損失を回避するあまり売り時を逃し、結果損切りしたところが底値だった、ということは良く聞く話です。この損失回避バイアスがいわゆる〇〇ショック時の下落幅を助長しているとも考えられています。

次に長期投資の場合はどうでしょう。重ねて私見を申し上げますが、〇〇ショックの様な短期間での急落時には、投資スパンによっては必ずしも直ちに行動に移さずとも良いのではないかと考えています。下のグラフは2000年からのBloombergグローバル債券インデックスとMSCIオールカントリーワールドインデックスの2000年からの推移です。米ドルベースで短期変動を均すため四半期ベースでプロットしてあります。2000年ITバブル崩壊からの米景気リセッション入り、さらに2001年の9.11テロとエンロンショックが重なり、株式市場は下落トレンドが続きましたが、その後約6年程度で下落前の水準まで戻っています。100年に1度と言われたリーマンショックも米景気リセッション期間が長く続いたにもかかわらず概ね6年で株式インデックスは回復しています。時間を味方につければ、ある程度の回復が見込める可能性が或る訳です。

もっとも、下落前と回復時では上昇に寄与するセクターや銘柄が異なる事は十分に考えられます。その観点では「見切り千両・損切り万両」はやはり重要であり、無視をしてよいと申している訳ではございません。〇〇ショック時にパニック的に見切り、損切りするのはではなく、ある程度相場が落ち着いた平時にこそ、じっくりこつこつとそれに取り組むのが重要だと考えております。

では、弊社が推奨する債券投資の場合はどうでしょう。くどいようですが私見です（笑）債券の場合はこの格言、無視を決め込んで良いと思います。慎重に発行体と、満期まで保有が可能な償還期間を選択する限り、償還時には発行通貨で元本が返ってくる可能性がきわめて高い確定利付き商品ですので、慌てて見切りや損切りをする必要はないのです。金融商品の中では預貯金に近い性格の債券（もっとも流動性は異なりますが）、今一度資産ポートフォリオのコアとしてご検討頂ければ幸いです。



最後に、この「見切り千両・損切り万両」は一説には米沢藩政改革を行った名君、上杉鷹山の以下の名言をもじったものと言われています。鷹山翁曰く「働き一両、考え五両、知恵借り十両、コツ借り五十両、ひらめき百両、一人知り三百両、歴史に学ぶ五百両、見切り千両、無欲万両」。「損切り万両」よりも「無欲万両」の方がはるかに難しく且つ尊いのかも知れません。

Presentation 5バリュー研修: 映画『美味しいごはん』



弊社では5バリュー研修の一環として、5バリュー発表と題した持ち回りの発表を行っています。今回は5月23日に開催の第8回オフサイトセミナーに登壇頂く、料理人ちこさんにスポットをあてた映画『美味しいごはん』(2018)を共通テキストとし、グループディスカッションと代表者による発表を行いました。多く出た感想は、相手のことを思うこと(自分たちが良いと思う・納得するものを、相手に提供する)や、ていねいな仕事、食材・自然への感謝の念、妥協なき「こだわり」などでした。以下、発表内容の一部をご紹介します。

・今の時代は金銭に換算し辛いメッセージは伝わりにくい。急がずじっくり、地道に発信することが大事。そういった点で、ゆにわ(大阪の枚方市樟葉で飲食店やサロン、学習塾などを運営。映画の主演であるちこさんは御食事ゆにわの店長を務める)の方々は、メッセージを発信するために自分たちの映画を作ったのだろうと感じた。(団 いどむ エグゼクティブ・ディレクター)

・映画の中で紹介された道元禅師の教え(『典座教訓』)に倣えば、ひとつひとつの所作に意味があり(仏教の考えでは、そこに修行がある)、お客様から見えていないところについても、心を込めて取り組むことが重要。そういった心構えが顧客重視に繋がっていくのではないかと。外国債券のセカンダリー営業では、お客様がマーケットや債券の動向を目にすることがないので、メンテナンスや個々のアフターフォローが重要になってくる。お客様の立場に立ってニーズに合う債券を探し出すうえでは、相手の胸中や要望を汲み取り、誠意をもって行動していくことが求められるという点に、ゆにわの取り組みと弊社の外債ビジネスとの共通性を感じた。(鐘ヶ江 伸 チーフ・マーケティング&プロダクトオフィサー)。

・当社の理念はまず第一に顧客重視であるが、お客様と向き合う際、ややテクニカルなものに走りすぎていると感じることもあり、いまいちど素直さや道徳心を持ってお客様に接して、信頼関係の構築や提案のプロセスを大事にしたいと、改めて考えた。(野口 智之 マーケティング&プロダクトオフィサー)

・今日の金融業界では、道徳心が消失してしまっている。高度な分析に基づいた説明を行えば良いとしながらも、その実は流れ作業のようにお客様に対応し、お客様のことを思わないのが当然という風潮になっているのが問題点であり、個人金融資産が貯蓄から運用にまわらない、という状況が続く原因のひとつかもしれない。(山村 浩之 副社長 兼 ヘッドオブ東京オフィス)



5Value Asset Co., Ltd.



5バリューアセット株式会社 金融商品仲介業者 近畿財務局長(金仲)第437号

各商品等にご投資いただく際には商品毎に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。又、各商品等には価格の変動等による損失を生じる恐れがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等をよくお読みになり内容について十分にご理解ください。

この通信は、当社ホームページに掲載するほか、当社セミナーにご参加いただいた方、業務提携をいただいた方、およびIFA口座をお申し込みいただいた方に送付しております。送付の停止・送付先変更をご希望の場合は、大変お手数ですが下記のメールにご連絡ください。送付の停止・送付先変更には、少々お時間をいただく場合がございます。

発信者：5バリューアセット株式会社 クライアント・リレーション

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビル20F

newsletter@5valueasset.com